

1862 年の著書で、「ロランの歌」をはじめとしたシャルルマーニュ（カール大帝）の騎士たちを題材にした物語を、トマス・ブルフィンチがまとめた形になっています。ヨーロッパの水滸伝のようなものといっていいでしょうか。

題材は西暦 800 年前後の話ですが、史実はほとんどなく、物語は 12 世紀から 15 世紀の騎士の時代につくられたもので、そのころの価値観が繁栄されたファンタジーになっています。魔法使いもでてくるし、月にもいきます。前半は冒険物で、後半は悲劇という形になっています。破天荒だったキャラが、簡単に処分されているようにみえるのは、なんとなくつじつま合わせ的で、歴史上の事象にからめるような形式の物語の王道なのだろうか。